

新フェローの紹介

浅利 英吉 (あさり えいきち) 氏

昭和4年2月10日生れ

〔現住所〕札幌市北区新川

〔学歴〕昭和20年7月

陸軍兵器学校電工科卒業

〔職歴〕昭和25年 電気通信省函館無線送受信所技術課、以後電信電話公社札幌通信部、北海道電気通信局

を経て昭和44年東海大学工学部助教授。現在、北海道文理科短期大学教授・小樽科大学非常勤講師他。

〔OR学会関係〕評議員 昭和47年～平成4年度、支部事務長 昭和51～57年度、OR事典編集委員 昭和49～50年度、北海道稲作冷害対策研究部会主査 昭和52～54年度、理事（無任所）昭和53～54年度を歴任。

〔著書等〕「PERT入門」、「数理統計学」（北海道電電公社）；「FORTRANによるプログラミング入門」、「電子回路I・電子物理編」（東海大学出版会、共著）；OR事典（日本OR学会、分担執筆）その他論文、講演等多数

浅利氏は、電子工学の分野を出発点として研究・実践の活動を始められ、次第にその領域を拡げ、「マイクロ波通信網の主要消耗材の保全問題」、「公衆電話の設置条件と利用度数の多変量解析による研究」、「業務上交通事故防止のための冬期安全運転技術の開発」、「自動電話化改築プロジェクト」、「気象情報市場調査」、「選挙における逐次開票に基づく予測」、「北海道稲作冷害対策の研究」、「物流基地設定問題」、「スキー場無線情報システム研究」等の多岐にわたる実際の問題にORを活用、大きな成果を納めてこられました。また、本学会においても、理事、評議員をはじめ、北海道支部事務長などを歴任され、その運営に多大な貢献をしてこられました。

荻野 正浩 (おぎの まさひろ) 氏

大正15年3月2日生れ

〔現住所〕東京都文京区小石川

〔学歴〕昭和35年3月 東北大学大学院経済学研究科博士課程単位修得

〔職歴〕昭和22年3月 仙台通信局工務部、以後電信



電話公社において電報電話局機械課長、施設部長など歴任

昭和59年 (株)デジタルコンピュータ、(株)電脳サービス、専門学校お茶の水外語学院等講師、現在経営・情報コンサルタント、中央大学・東洋大学兼任講師

〔OR学会関係〕東北支部幹事、運営委員 昭和52年以降、合意形成・政策研究部会主査 昭和61年～現在

〔著書等〕ハイパーネットワーク社会の構築と展望に関する研究（共著、日本情報処理開発協会）他、電電内部図書、部内誌、学会での発表・報告多数。

荻野氏は、電電公社東北のOR担当として、自ら社内業務へのOR理論適用に当たられるとともに、職員への教育普及に尽力、また本学会東北支部幹事として学会活動にも力を注がれ、特に公社組織替えに際しては、東北支部の組織維持に貢献されました。同社退職後も、引続き支部役員として活動されるとともに、研究部会主査を歴任、率先して活発な研究・普及活動を継続中であり、学会の運営に多大の貢献をしております。

栗原 宏文 (くりはら ひろふみ) 氏

昭和15年7月14日生れ

〔現住所〕愛媛県松山市東長戸

〔学歴〕昭和38年 東京大学工学部応用物理学科計測コース卒業

昭和41年 マサチューセッツ工科大学大学院化学工学科・電気工学科修士課程卒業

昭和42年 マサチューセッツ工科大学大学院化学工学科博士課程卒業（工学博士）

〔職歴〕

昭和38年 東亜燃料工業(株)入社

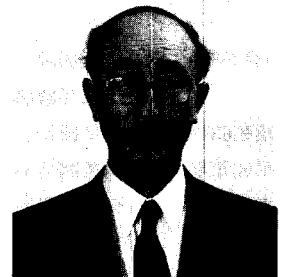
昭和56年 米国エクソン・リサーチ社出向

昭和60年 東亜燃料工業(株)製造計画部次長

平成3年 東燃システムプラザ(株)システム研究所所長代理（出向）

平成7年 愛媛大学法文学部教授

〔OR学会関係〕研究普及委員 平成2～3年度、評議員 平成2～3年度、理事（無任所）平成4～5年度〔著書等〕プロセス制御システム（共訳、好学社）、〈図



解) 計算機制御用語辞典(共著, 日刊工業), 他著書数冊, 論文, 報文, 学会発表多数。

栗原氏は, 石油精製業におけるプロセス制御ならびに OR の実践を長年にわたって推進してこられました。特に, 流動接触分解工程のシミュレーション解析や生産設備計画のための製油所全体の大規模なシミュレーション解析の実践は, 世界でもあまり例を見ないほど高度な水準のものともいわれております。近年は, 関心が工学から社会・人文科学へとシフトされ, 企業内での電子メール・システムの高度的活用等, グループウェアの研究から, さらに社会・組織における情報とコミュニケーションの問題, 特にコンピュータを用いたコミュニケーションおよび電子ネットワーク社会論の研究を手懸けられています。本学会においても, 研究普及委員, 理事, 評議員として, その運営に貢献してこられました。

後藤 義雄(ごとう よしお)氏

昭和9年1月31日生れ
〔現住所〕宮城県仙台市宮城野区福室
〔学歴〕昭和27年 宮城県工業高等学校卒業

〔職歴〕
昭和27年 ㈱河北新報社入社

昭和53年 同社文選部副部長 兼写植部副部長

昭和63年 同社統括部長
平成元年 同社情報開発室部長
平成4年 同社情報局副局長
平成6年 同社社友

〔OR学会関係〕東北支部監事 昭和45~49年度, 同支部幹事 昭和50~59年度, 同支部運営委員 昭和60年度~現在, 評議員 昭和63年度~現在

〔著書等〕OR事典(分担参加, 日科技連), 学会発表3件, 他団体での発表・報告多数。

後藤氏は, ORを独学で, また, 解析学, 統計学, 応用数学を東北大学で学んだ後, 昭和40年本学会に入会, 東北支部発足後は, 仙台で開催されたOR学会のすべてに関与するなど, 長年にわたり支部役員として活動してこられました。

河北新報社では, 昭和44年選挙予測, 世論調査の設計・実施, 50年OR的考えを進めて新聞製作CTS(Computerized Typesetting System)を立案, 以降2次にわたるCTSの構築と移行, 社員の指導に従事され,

CTS完成後は, 新聞記事データベースを構築して内外での活用をはかるとともに, 東北インテリジェント・コスモス構想など, 各種プロジェクトに参加することにより地域および情報分野の発展に多大な尽力をされ, また, 本学会支部運営委員, 本部評議員などを歴任し, 学会の運営・発展に大きな貢献をなされました。

鈴木 道夫(すずき みちお)氏

昭和19年8月14日生れ
〔現住所〕東京都葛飾区新小岩
〔学歴〕昭和43年3月 東京大学工学部計数工学科卒業

〔職歴〕
昭和43年 (財)電力中央研究所入所

昭和59年 同所経済研究所システム開発研究室長
昭和60年 同所経済研究所知識処理研究室長
平成3年 同所経済研究所情報システム部長
平成5年 同所情報研究所情報科学部長

この間, パデュー大学経営・経済・計算機科学科客員研究員, 東邦大学理学部非常勤講師などを歴任

〔OR学会関係〕研究普及委員 昭和47~55年度, 理事(研究普及)平成2~3年度, 評議員平成6年度~現在, その他OR企業サロン企画委員, 財政問題検討委員等を歴任

〔著書等〕データベースシステム(共訳, 共立出版, 1973), 入門リニアプログラミング(共訳, 日刊工業新聞社, 1974), 新しいデータベース技術(訳, 共立出版, 1980), コンピュータ百科辞典(分担執筆, オーム社, 1986), 乗り遅れるな情報化社会(訳, 近代科学社, 1987), 他論文, 研究報告多数。

鈴木氏は, データベース, ソフトウェア工学, 人工知能など, 計算機科学関係を専門とされており, ORの手法や方法論を情報システムに取り込むことによって, 業務の効率化や経営の合理化に寄与するとの一貫した考えのもとに, 電力需要想定, 意思決定支援システム, 各種エキスパートシステムの開発などを通じて, 電気事業におけるさまざまな分野へのORの普及をめざして活躍してこられました。また, 本学会においても, 長年にわたって研究普及委員, 同理事を勤められ, さらには各種委員会委員, 評議員などを歴任, ORの普及活動に尽力されるとともに学会の発展に多大な貢献をしてこられました。



田口 東 (たぐち あずま) 氏

昭和26年11月8日生れ

〔現住所〕神奈川県横浜市
青葉区あざみ野

〔学歴〕昭和49年 東京大
学工学部計数工学科卒業

昭和58年 工学博士

〔職歴〕

昭和49年 三菱重工業(株)
入社

昭和51年 東京大学工学部助手

昭和55年 山梨大学工学部講師

昭和58年 同助教授

平成4年 中央大学理工学部教授

〔OR学会関係〕第7回 文献賞授賞 昭和54年, 第11回 事例研究奨励賞授賞 平成3年, 理事(庶務)平成5~6年度, その他庶務幹事, 会員対策委員, 財政問題検討委員等を歴任

〔著書等〕情報システムハンドブック(共著, 培風館), 他著書2冊, 訳書2冊, 論文19編, 発表多数

田口氏は, 社会的もしくは工学的な現象をモデルを使って説明するという立場からORの適用, 手法の開発に力を注いでこられました。現在までに, 都市道路網の解析, プロット作図時間の短縮, 大学入試における“輪切り”現象, 都市問題, スポーツのゲーム分析とさまざまな分野の題材を取り上げられています。使われる手法は非常に平易ですが, やや突飛とも見える大胆な単純化の仮定がなされ, 実際のデータを用いた綿密な検証と推論を経て, 結果が図的に表現され, 説得力のある提案がなされています。また, 本学会の運営にも各種委員, 庶務幹事, 理事として多大な貢献をしてこられました。

野村 淳二 (のむら じゅんじ) 氏

昭和22年4月10日生れ

〔現住所〕大阪府大阪市西
成区玉出

〔学歴〕昭和46年 京都大
学工学部電子工学科卒業

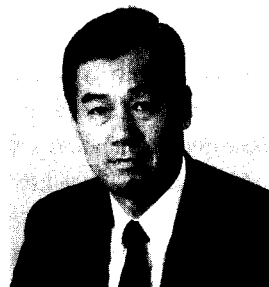
昭和63年 工学博士

〔職歴〕

昭和46年 松下電工(株)入社

昭和56年 同社総合技術研
究所主査

昭和63年 同社中央研究所副主幹



平成3年 同社インフォメーションシステムセンター主幹技師

〔OR学会関係〕第6回 事例研究奨励賞授賞 昭和61年, 関西支部運営委員 昭和63年度~現在, 評議員 平成3年度~現在

〔著書等〕Self-Organizing Methods in Modeling(共著, Marcel Dekker社, 1984), AHP事例集(共著, 日科技連出版社, 1990), バーチャルリアリティ応用戦略(共著, オーム社, 1992), 人工現実感生成技術とその応用(共著, サイエンス社, 1992), 論文15編, 学会発表53件, 解説, 講演等多数。

野村氏は, 企業内のさまざまな問題に対するORの実践を長年にわたって推進してこられました。ISM手法, GMDH手法等のモデリング技術から多目的最適化技術に至るまで, さまざまな技術, 技法を応用し, 松下電工における経営計画や設計の最適化, 意思決定支援等に対するOR活動の実施と定着化に努められています。近年では特にバーチャルリアリティ技術による仮想空間を利用した意思決定支援システムの研究開発とその実用化を中心に活躍され, 企業における実践の立場からのORについて本学会および国際学会等において積極的な発表, 講演を行なっておられます。

また, 本学会においては関西支部運営委員, 本部評議員を歴任され, 学会の運営と発展に貢献してこられました。

平本 巖 (ひらもと いわお) 氏

昭和10年9月27日生れ

〔現住所〕神奈川県横浜市
神奈川区神大寺

〔学歴〕昭和34年3月 早
稲田大学第一理工学部数学
科卒業

昭和36年3月 立教大学大
学院理学研究科修士課程修
了

〔職歴〕

昭和36年4月 (財)電力中央研究所入所

昭和44年4月 (株)日本科学技術研修所入社

昭和57年1月 (株)電力計算センター入社

平成4年4月 愛知学泉大学経営学部客員教授

平成5年4月 同経営情報学科教授

この間, 津田塾大学数学科, 横浜国大経営学部, 湘南工大情報工学科他の非常勤講師を歴任

〔OR学会関係〕庶務幹事 昭和47~48年度, 機関誌編



集委員 昭和52～55年度, 理事 (研究普及) 昭和58～59年度, 理事 (会計) 昭和63年度～平成元年度, 財政問題検討委員会委員長 平成2年度～現在

〔著書等〕線形計画法 (共著, 培風館), パソコンパッケージによる例解線形計画法 (共著, サイエンス社), ORワークブック (共著, 日科技連), FORTRAN 語入門 (共著, コロナ社), OR と電子計算機 (共著, 日科技連), その他著書, 訳書多数, 論文, 解説, 口頭発表多数.

平本氏は, OR マインドをもってコンピュータを活用することをテーマに活躍してこられました. 日本に大型機が導入されてすぐに電力会社と共同で実施した電力中地域の電源開発計画計算の機械化, 大型機用フォートランの解説書では日本で2番目に刊行された「FORTRAN 語入門」(’63年), 大型機に共通な積形式を用いた有界変数法による改訂単体法をその開発経験にもとづいてわかりやすく解説した「線形計画法」(’73年)の他, 雑誌, 講習会などを通しての大型コンピュータを用いた線形計画法およびフォートランの普及活動には顕著なものがあります. また, 電力会社のOR ワーカーによる研究会を組織したり, 学会関係の諸イベントに積極的に参加することによりOR の普及に努めてこられました. また, 長年にわたって本学会の幹事, 委員, 理事などを歴任されとともに, 本学会が編集刊行した「OR 事典」(’75年)のWG メンバー, 「OR 事例集」(’83年)と「OR 事例集1991」の編集委員, 「文献賞受賞論文集」(’82年)の編集副委員長, 等も勤められ, 学会の運営・発展に多大な貢献をしてこられました.

松山 久義 (まつやま ひさよし) 氏

昭和14年7月10日生れ
〔現住所〕福岡県福岡市東区水谷

〔学歴〕昭和38年東京大学工学部化学工学科卒業

昭和43年 東京大学大学院博士課程単位取得退学

昭和44年 工学博士

〔職歴〕

昭和43年 東京大学助手

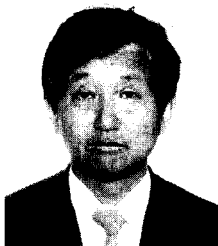
昭和49年 同講師

昭和52年 九州大学助教授

昭和55年 同教授

平成6年より情報処理センター長兼務

〔OR 学会関係〕九州支部運営委員 平成2～5年度,



九州支部副支部長 平成6年度～現在, APORS’94国際会議組織委員 平成5～6年度

〔著書等〕生物のかたち (共訳, 東京大学出版会), 高分子の製造 (共著, 日刊工業新聞社), プラントオペレーション工学 (共著, 海文堂出版) 他著書4冊, 論文65編, 解説・発表多数

松山氏は, スケジューリング, シミュレーション, 信頼性工学等の分野の研究において顕著な業績をあげられ, 特に, 化学プラントの異常診断や異常時における対応処置の決定, スケジューリング, 共沸蒸留プロセスの開発支援システムの研究, 化学反応器の安定性の解析等, 化学工学における重要問題についてOR の適用に務められ, 成果をあげてこられました. また, 本学会においても九州支部運営委員, 副支部長, APORS’94組織委員等を歴任され, 特に福岡でのAPORS’94年の開催にあたっては現地で裏方を務められ, その果たした役割は極めて多大であり, 国際会議を成功裡に導かれる等, 学会の運営に貢献してこられました.

真鍋 龍太郎 (まなべ りゅうたろう) 氏

昭和13年5月2日生れ

〔現住所〕神奈川県川崎市多摩区西生田

〔学歴〕昭和42年3月 慶応義塾大学大学院工学研究科博士課程(管理工学専攻)単位取得退学

〔職歴〕

昭和41年4月 慶応義塾大学 工学部 管理工学科助手

昭和44年4月 名古屋工業大学経営工学科講師

昭和48年4月 神戸商科大学管理科学科助教授

昭和54年 同教授

昭和62年 文教大学情報学部教授, 学園電算センター長 兼務

この間, University of California at Berkeley. Visiting Professor, Georgia Institute of Technology Research Associate など歴任

〔OR 学会関係〕中部支部・関西支部各運営委員, OR 誌編集委員, OR 企業サロン企画委員, 理事 (無任所) 昭和63年度～平成元年度, 評議員などを歴任

〔著書等〕デジタルクー表計算ソフトの活用— (培風館), 文科系のコンピュータ/応用篇 (共著, 岩波書店), AHP 事例集 (共編著, 日科技連出版社) インフォ

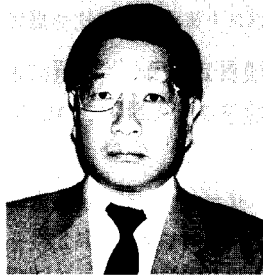


メーション・ベスト・コーポレーション（翻訳，ダイヤモンド社）など。論文・研究発表多数。

真鍋氏は，ORは本来問題解決の考え方と方法であるという基本姿勢で，研究や大学内での教育，学外での活動に当たってこられました。この姿勢は，学会の研究普及活動としてのAHP，OR広報，ORリテラシー等研究部会の中で，あるいはOR企業サロン企画委員としても，貫いていられています。また，本学会の幹事や役員としては，支部での活動の際には支部の声を本部に届くように，他方，関東に戻ってからは支部の立場を考えることを念頭に置きながら学会運営に努められ，そのバランスのとれた発展に多大な貢献をしてこられました。

柳沢 滋（やなぎさわ しげる）氏

昭和13年7月4日生れ
〔現住所〕神奈川県大和市中央林間
〔学歴〕昭和42年 慶応義塾大学大学院工学研究科管理工学専攻修士課程修了
〔職歴〕



昭和37年 沖電気工業(株) 入社

昭和56年 同社電子デバイス事業部生産システム部長
平成元年 同社生産統括本部 CIM 推進センタ長
平成5年 同社企業品質センタ長

〔OR学会関係〕庶務幹事 昭和43～44年度，理事（庶務）昭和59～60年度，理事（無任所）昭和63年度～平成元年度，その他評議員等歴任

〔著書等〕PERTのはなし（日科技連出版社，1985），在庫管理のはなし（日科技連出版社，1988），初等ORテキスト（共著，日科技連出版社，1972），ORワークブック（共著，日科技連出版社，1984）他，論文・発表多数

柳沢氏は沖電気工業入社以来，通信機事業・半導体事業・本社の生産関連部門を歴任，商品開発管理，生産計画，スケジューリング，生産システム構築，半導体設備投資，生産拠点配置計画などにORを活用し，その普及に務めるとともに，ORの教育と演習にたずさわってこられました。また，本学会では，幹事，理事，委員，評議員等を歴任し，長年にわたり，その発展に大きな貢献をしてこられました。

新時代のコンピュータ総合誌

隔月刊

Computer Today

9月号・特集 偶数月18日発売／定価930円

マルチメディアエディタ

インタビュー：マルチメディアエディタ／おしゃべりするマルチメディア言語エディタ／NEXTSTEPでの経験：その光と影／マルチメディア温故知新／real vs unreal：ディスプレイの向こうとこちら

連載 スーパーテクニック for Macintosh 他

月刊誌

数理科学

毎月20日発売／定価980円

10月号 特集 **素粒子論とその数理**

ゲージ理論への道	西島 和彦
重力場の量子化	湯川 哲之
格子QCD	岩崎 洋一
超対称性理論でのヒッグス粒子	坂井 典佑
複合模型におけるヒッグスボソン	山脇 幸一
Bファクトリー計画	渡辺 靖志
ニュートリノをめぐる謎	鈴木 厚人
ミラー対称性	細野 忍
量子論とトポロジー	筒井 泉
N=2 超対称 Yang-Mills 理論と Seiberg-Witten 方程式	伊藤 克司

別冊・数理科学

B5・定価1900円

物理法則——そのたて糸とよこ糸

- ☒ I. 物理法則を考える
物理法則を考える／天の法則・地の法則
- ☒ II. 様々な物理法則
かたちの法則・法則のかたち／最小作用の原理／物理法則と非線形性／物理法則と漸近的法則／一般相対論の物理
- ☒ III. 量子力学における特異性
不確定性の役割／超低温・超流動／場 他
- ☒ IV. 保存則と対称性
自然における保存則と対称性／保存則について／時間はおりかえす？／超伝導，超流動における対称性の破れ 他
- ☒ V. 可逆と非可逆
物理学における時間の矢／統計力学における不可逆性 他
- ☒ VI. 新しい物理法則を目指して
カオス／カオスと1/fゆらぎ／液晶にみられる不思議な法則／新しい物理法則の発見をもとめて

サイエンス社

〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-3-25
☎ (03) 5474-8500 振替00170-7-2387